

高千穂橋梁の真ん中で列車がいったん停車すると、車掌さんがつくったシャボン玉が風に乗って宙を舞う。乗客は360度の絶景を堪能できる。

高千穂鉄道の復興は山の復興であり、高千穂の国づくりである

聞き手・渡邊直樹 本誌編集長 写真・藤本哲朗
神話と伝説の里・高千穂に生まれ育った作家の高山文彦さんは、高千穂あまてらす鉄道の社長でもある。台風で廃線となった鉄道を高山さんたちはどのように復興しようとしているのか。

Fumihiko Takayama

● 1958年、宮崎県高千穂町生まれ。
99年、『火花 北条民雄の生涯』で大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクションを受賞。著書に『水平記』『宿命の子 笹川一族の神話』『ふたり 皇后美智子と石牟礼道子』故郷の高千穂を描いた『鬼降る森』など。
2008年より高千穂あまてらす鉄道社長も務める。

高山文彦

巻頭インタビュー

作家
高千穂あまてらす鉄道社長